

福島県における中高一貫教育の展開

構成

- 1 わが国における中高一貫教育の導入の経緯
- 2 福島県における中高一貫教育の導入の経緯
- 3 併設型の中高一貫教育の導入に向けての取り組み
- 4 連携型の中高一貫教育の導入に向けての取り組み
- 5 併設型の中高一貫教育
- 6 連携型の中高一貫教育

1 わが国における中高一貫教育の導入の経緯

平成9年6月の中央教育審議会の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第2次答申）」の提言を受けて、平成10年6月に「学校教育法等の一部を改正する法律」が成立し、平成11年4月より、「6年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育指導を展開し、生徒の個性や創造性を伸ばす」ことを目的とする中高一貫教育を選択的に導入することが可能となった。

2 福島県における中高一貫教育の導入の経緯

(1) 「中高一貫教育研究会議」 (平成10年度～平成13年度)

本県では、平成10年度に文部省（現文部科学省）の委嘱を受けて、中高一貫教育の在り方を検討し中高一貫教育の実践的な研究を行うため「中高一貫教育研究会議」を設置し、平成10年度から12年度にかけて、県北地域（二本松市）、南会津地域（田島町、舘岩村※、下郷町）、相双地域（川内村）の3地域で実践研究を進めた。

本会議は、有識者、関係自治体教育長、関係高等学校長、関係中学校長、県高等学校長協会長、県中学校長会長、県小学校長会長、教育庁関係者等を構成員として運営された。

※ 平成18年3月20日に、田島町、舘岩村、伊南村、南郷村が新設合併し南会津町となる。

(2) 「県立高等学校改革計画 第二次まとめ」 (平成11年3月)

「県立高等学校改革計画 第二次まとめ」(平成11年3月)の「第5 本県高等学校教育の充実のために」において、「本県における中高一貫教育の在り方については、その設置形態や教育内容、設置場所、設置学級数など、解決すべき課題もあることから、今後、「中高一貫教育研究会議」において具体的に検討する」こととした。

(3) 「新世紀ふくしまの学び・2010～第5次福島県長期総合教育計画～」

(平成13年3月)

「新世紀ふくしまの学び・2010～第5次福島県長期総合教育計画～」(平成13年3月)では、本県の教育行政が拠って立つ教育理念を明らかにし、今後の教育行政の方向性について、「共生」と「自立」の理念のもと、「人と共に」「地域・自然と共に」「新世紀と共に」「学びの環境づくり」の4つの視点から、基本目標である「人・地域・自然と共に個を磨く新世紀ふくしまの教育」の実現を目指すこととした。本計画「第1章 人と共に」の「第1節 生涯にわたって生きる力を支える基礎学力を身に付ける」において、小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実及び中高一貫教育の推進を図ることとした。

(4) 「福島県学校教育審議会」答申 (平成13年12月)

諮問 「社会の変化に対応した本県教育の在り方について～3 本県における中高一貫教育を進めるにあたって配慮すべきことがら並びに実施形態及びその配置について」等を諮問した。

(平成12年9月)

答申 「福島県学校教育審議会」では、「教育における選択幅の拡大と中高一貫教育」「中高一貫教育の利点」の観点から検討を進め、「中高一貫教育の推進にあたって配慮すべき事項」を列挙しながら、「中高一貫教育の利点や本県教育の目標などを考えた場合、本県においても中高一貫教育の選択的導入を積極的に推進することが、本県教育の目標を達成する上でも極めて有効」との考えを示した。

(平成13年12月)

(5) 「中高一貫教育研究会議」報告書「福島県の実情に即した中高一貫教育の在り方について 最終まとめ」 (平成14年2月)

「中高一貫教育研究会議」は、3年間にわたる3地域での実践研究の成果等を「福島県の実情に即した中高一貫教育の在り方について 最終

まとめ」(平成14年2月)としてとりまとめ、本報告書において、中高一貫教育について「①連携型、併設型及び中等教育学校のそれぞれが独自の魅力を持っていること、②子どもや保護者のニーズに応じて多様なメニューを提供する工夫(中等教育における複線化構造)であることなどから、中高一貫教育の形態等については一つの形態にとらわれることなく、本研究成果を活用するなど様々な要素を考慮し、柔軟に対応することが必要である」とするとともに、「地域の特色や住民ニーズなどを考えた「地域に開かれた新しい学校づくり」の視点に立って、中高一貫教育を進めることが適当である」とした。

(6)「中高一貫教育実施計画」 (平成15年3月)

中高一貫教育の意義、中高一貫教育研究会議の提言、福島県学校教育審議会の答申等を踏まえ、実施計画を策定し、平成22年度までの前期においては、会津若松市に併設型、塙町・田島町・相馬市に連携型を設置することを明らかにした。

3 併設型の中高一貫教育の導入に向けての取り組み

(1)「会津学鳳中高一貫教育検討委員会」 (平成15年度～平成18年度)

本委員会は、会津大学、会津若松市教育委員会、母体校である会津学鳳高校(平成17年度から会津学鳳中高一貫教育校開設準備室が参加)、教育センター、会津教育事務所、教育庁内担当グループを構成員とする。本委員会において、教育目標や目指す生徒像などの教育コンセプト、教育課程・高大連携・特別活動・学鳳レインボープロジェクトなどの教育内容、入学者選抜方法、止宿先や給食等の必要な事項について、先進県等調査や専門家等からの意見聴取の結果などを踏まえ、多面的、総合的に検討した。

(2)「会津学鳳中高一貫教育検討委員会まとめ」 (平成16年1月)

平成15年度に5回開催した会津学鳳中高一貫教育検討委員会において検討した内容をまとめたものである。

(3)「会津学鳳中高一貫教育検討委員会第二次まとめ」 (平成17年3月)

平成16年度に3回開催した会津学鳳中高一貫教育検討委員会におい

て検討した内容をまとめたものである。

(4) 「福島県立会津学鳳中学校条例」制定 (平成18年10月)

平成18年10月、福島県条例第99号「福島県立会津学鳳中学校条例」を制定した。

(5) 福島県立会津学鳳中学校入学者選抜の実施 (平成19年1月)

平成19年1月23日、会津学鳳高等学校において、福島県立会津学鳳中学校入学者選抜を実施した。

募集定員90名に対して、373名(男 134名、女 239名)が志願し、志願倍率は4.14倍となった。

(6) 会津学鳳中高一貫教育校の開始 (平成19年4月)

平成19年4月9日、会津風雅堂において、会津学鳳中学校の新入生90名(男 29名、女 61名)、会津学鳳高等学校の全生徒並びに新入生244名(男 99名、女 145名)が出席し開校式を挙行了。開校式の後、中学校・高等学校合同の入学式を挙行了。



開校式オープニングアトラクション

(7) 新校舎への移転 (平成19年9月)

平成19年9月1日に、会津若松市追手町2番41号から、同市一箕町大字八幡字八幡1番地の1に完成した新校舎へ移転し、9月3日より新校舎で授業を開始した。



南西側から見た新校舎

主な施設・設備の概要

校地総面積	86,835.16 m ²	(校舎敷地等面積	49,220.02 m ²)
中学校棟	3階建	RC造	
高等学校棟	3階建	RC造	
管理体育館棟	3階建	RC造・S造	
体育施設棟(格技場、弓道場)	木造		

4 連携型の中高一貫教育の導入に向けての取り組み

【3地域における連携型による中高一貫教育】

(1) 「連携型による中高一貫教育検討協議会」(平成15年度～平成16年度)

平成17年度を目途に連携型中高一貫教育を導入するにあたり、関係自治体教育委員会、関係高等学校、関係中学校、教育庁関係者等で構成し、教育のコンセプトや連携する教育課程について検討した。各地区において年3回開催した。

(2) 3地域において連携型による中高一貫教育開始 (平成17年4月)

平成17年4月、県南地区(東白川郡埴町)、南会津地区(南会津郡南会津町)、相双地区(相馬市)において、連携型による中高一貫教育を開始した。連携型による中高一貫教育の開始に伴い、これまでの「連携型による中高一貫教育検討協議会」を「連携型による中高一貫教育運営協議会」(平成17年度～平成19年度)に改め、平成17年度に導入した連携型中高一貫教育の、より効果的な運営と教育内容の充実及び入学者選抜等の在り方に関する検討を行った。各地区において年2回開催した。

【双葉地区における連携型による中高一貫教育】

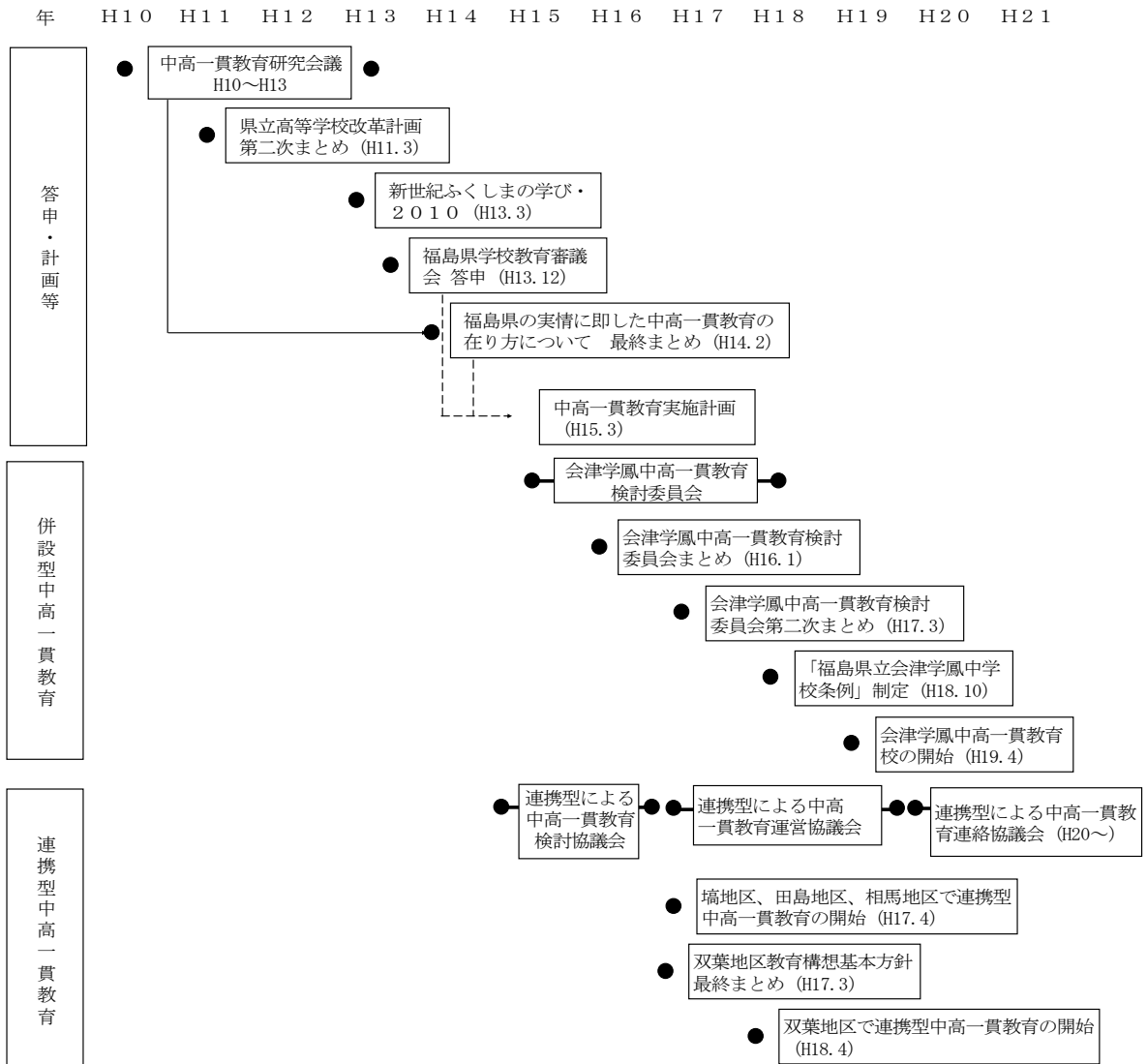
(1) 「双葉地区教育構想基本方針 最終まとめ」(平成17年3月)

「双葉地区教育構想基本方針 最終まとめ」(平成17年3月)では、「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とし、その実現のため、「中学校3年間と高等学校3年間の教育課程をスムーズに接続するとともに、地域との連携を推進することにより、中高6か年の教育課程の系統性に基つき、地域と協力して、より効果的で特色のある中等教育を展開する」とした。また、本「最終まとめ」の「(4)双葉地区の連携型中高一貫教育」において、本構想の基本目標を実現し、世界を舞台に活躍できる人材を育成するため、連携型中学校4校(富岡第一中学校、富岡第二中学校、楢葉中学校、広野中学校)と連携型高等学校1校(富岡高等学校)が教育課程の連携や教員・生徒間の交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施することを明らかにした。

(2) 双葉地区において連携型による中高一貫教育開始 (平成18年4月)

平成18年4月、双葉地区(富岡町、楢葉町、広野町)において、連携型による中高一貫教育を開始した。

【まとめ表】



5 併設型の中高一貫教育

【会津学鳳中・高等学校での中高一貫教育】

(1) 開設年度 平成19年度

(2) 募集定員 中学校：会津学鳳中学校

1学年 90名（3学級 学区は県下一円）

高 校：会津学鳳高校（総合学科）

1学年240名（6学級 学区は県下一円）

(3) 教育コンセプト

① 教育目標「国際化、情報化社会に夢拓く力の育成」

② 育てる力

イ 基礎・基本をもとに自ら学び考える力

ロ 高いレベルの目標を設定し主体的に学ぶ力

ハ 情報活用能力、外国語によるコミュニケーション能力及び国際感覚を兼ね備え、地球的規模で考え行動する力

③ 生徒像 「夢の実現に向けて主体的に学ぶ生徒」

国際化、情報化社会のリーダー、開拓者として活躍する人材を育成する

(4) 志願等の状況（会津学鳳中学校）

	H19	H20	H21
募集定員	90	90	90
志願者数	373	316	252
倍 率	4.14	3.51	2.8

(5) 教育の特色

① 少人数による習熟度別指導、チームティーティング、中高教員相互による交流授業の実施など、6年間を見通した計画的・継続的な教育。

② 幅広い年齢層による学校行事、部活動によるより豊かな人間性や社会性の育成。



弓道部で高校生から指導を受ける中学生

- ③ 人間としての在り方生き方を探究するとともに、課題追求学習により自ら学ぶ力の育成を目指す「学鳳レインボープロジェクト」を中高の「総合的な学習の時間」等で実施。
- ④ 会津大学と高大連携の協定を結び、大学教員の中高での講義、大学の聴講・単位認定、施設の開放。

(6) 特色ある教育活動

① 会津大学教員によるスポット講義

平成20年3月10日、会津大学講堂で、会津大学のマイケル・コーエン教授の数学（空間概念とマルチメディア）に関する講義を中学1年生が聴講。立体視や数学のゲームなどを取り入れた講義（90分）。楽しみながら学問の世界が広がる。



高大連携事業「スポット講義」

② 異年齢集団による学校生活

平成19年10月19日に、中高合同による本格的な学校行事「体育祭」を開催。中高で6つの縦割り班をつくり、総合得点を競う。



高校生が中学生をよくリードし、全校一体となった楽しい有意義な「体育祭」

③ 文化祭

平成20年8月30日、31日に、3年に一度の文化祭「学鳳祭」を実施。「環境」をテーマに、「エコハウスをつくろう」「地球に優しい次世代エネルギー実験」「石油に頼らない発電の仕組み」などの展示に取り組み、見応えのある展示やイベントを展開。



リニアモーターカーの原理の説明

6 連携型の中高一貫教育

【県南地区（東白川郡埴町）での中高一貫教育】

(1) 開始年度 平成17年度

(2) 連携校

中学校：埴中学校

高校：埴工業高校（機械科、電子科）

(3) 連携の柱・・・平成20年度の取り組み（平成21年1月22日までのもの）

① 「基礎学力の向上」

- ・ 中学校教員と高校教員がTTにより、中学校において「国語」（3年）、「数学」（3年）、「英語」（1～3年）を、埴工業高校において「国語総合」（1年）、「国語表現」（3年）、「数学Ⅰ」（1年）、「数学Ⅱ」（2年）、「英語Ⅰ」（1年）の授業を実施。
- ・ 夏季休業中に埴中学校の3年生の希望者を対象に、「国語」「数学」「英語」の3科目について、中学校教員と高校教員が指導者となり「夏期特別学習講座」（3日間。1講座80分×3）を開催。



キュポラを用いた融解実習

② 「環境・健康教育」

- ・ 「薬物」や「性」に関する教育講演会を開催。埴中学校において、埴中学校1～3年生と埴工業高校1年生が「薬物乱用防止講座」を聴講。

③ 「キャリア教育」

- ・ 埴工業高校の学習内容を理解してもらい、進路選択に役立ててもらうため、科目「実習」で実施している、鉄をキュポラ装置を用いて融解する「融解実習」を埴中学校の2年生が参観。埴工業高校からは機械科の2年生と3年生が参加。実習に先立ち、埴中学校において、中学校教員と高校教員により「鉄の性質」「キュポラ融解実習」について事前指導を実施。
- ・ 埴工業高校のインターンシップに、埴中学校の生徒が参加。

- ④ 「ものづくり・情報教育」
- ・ 埴中学校の2年生が「技術・家庭」の授業として、埴工業高校機械科・電子科の学習内容と関連する、キーホルダーの製作・ベンチの製作・簡単なマイコンゲームの製作などの「ものづくり」に参加。



ものづくり体験で文鎮を製作する中学生

(4) 入学者選抜について

平成20年度入学者選抜より、I期選抜枠（30%）に加え、連携型枠を（30%）を設定した。

(5) その他

- ① 合同芸術鑑賞会
- ・ 埴中学校において、埴中学校全生徒及び埴工業高校全生徒を対象に演劇「3人でシェイクスピア」を鑑賞。
- ② 課題研究発表大会
- ・ 埴工業高校機械科・電子科の科目「課題研究」の発表会に、埴中学校生徒が参加し、高校生の発表を聴講。
- ③ 会議
- ・ 中高連携推進委員会議 2回開催
 - ・ 国語担当者会 5回開催
 - ・ 数学担当者会 6回開催
 - ・ 英語担当者会 9回開催

【田島地区（南会津郡南会津町）での中高一貫教育】

(1) 開始年度 平成17年度

(2) 連携校

中学校：田島中学校、檜沢中学校、荒海中学校

高校：田島高校（普通科）

(3) 連携の柱・・・平成20年度の取り組み（平成21年1月22日までのもの）

① 「基礎学力の向上」

- ・ 中学校教員と高校教員がTTにより、中学校において、「数学」（田島中2・3年、檜沢中2・3年、荒海中2・3年）、「英語」（田島中2・3年、檜沢中1～3年、荒海中2・3年）を、高校において「数学I」（1年）の授業を実施。



中学校での、中高教員による授業

- ・ 平成20年度より、中学生を対象に、「中学校共通テスト」を2回実施。問題作成は田島高校、採点は各中学校、分析は田島高校・各中学校が担当。

② 「環境教育、福祉教育等を通じた地域理解」

- ・ 田島高等学校環境科学コースの生徒と教員が、自然環境への関心を高めるため、中学校で中学生とともに栽培学習・植栽活動を実施。



田島高校環境科学コースの生徒が、中学校で中学生とともに栽培学習・植栽活動

③ 「キャリア教育」

- ・ 中高6年間を通じた進路学習用の「進路学習ノート」を作成し、同ノートを活用した進路指導を展開。
- ・ 授業参観や座談会（高校生活に関する質疑応答等）を通して、中学生が高校生活を知り進路選択の一助となるよう「中学生による高等学校訪問」を実施。
- ・ 高校進学の意味、高校生活、高校卒業後の進路、将来に結びつく中学生活の送り方等について高校教員から直接話を聞くことで、中学生

の進路意識の高揚を図る「高校教員による中学生への進路講話」を実施。

- ・ 連携中学校の2年生と田島高校の1年生が参加する就業（職場）体験を実施。「進路学習ノート」を活用した事前学習を実施し、体験は「記録ノート」の作成し、体験集として集約。

（４）入学者選抜について

平成20年度入学者選抜より、I期選抜枠（10%）に加え、連携型枠を（50%）を設定した。

（５）その他

- ① 合同芸術鑑賞会
 - ・ 南会津町の「御蔵入交流館」において、連携中学校の2・3年生及び田島高校全生徒を対象に演劇「Calleng-ed～早い水の記憶～」を鑑賞。
- ② 高校生による中学校文化祭における学校説明会
 - ・ 田島高校の類型（コース）や生徒の活動を紹介することにより、高校への理解を深めるため、田島高校の生徒会役員が中学生に田島高校紹介のプレゼンテーションを実施。
- ③ 部活動交流
 - ・ 連携中学校と田島高校のソフトボール部員が合同練習や練習試合を実施。
- ④ 「田島地区連携型中高一貫教育新聞」、田島高だより「潮音台」の発行
 - ・ 「田島地区連携型中高一貫教育新聞」は田島地区小・中学校及び田島高校の生徒・保護者・教員、南会津教育事務所、南会津町教育委員会に、「潮音台」は田島・下郷・舘岩の全家庭に配付。
- ⑤ 会議
 - ・ 数学担当者会 4回開催
 - ・ 英語担当者会 3回開催

【相双地区（相馬市）での中高一貫教育】

（１）開始年度 平成17年度

（２）連携校

中学校：玉野中学校、中村第一中学校、中村第二中学校、向陽中学校
磯部中学校

高校：相馬東高校（総合学科）

（３）連携の柱・・・平成20年度の取り組み（平成21年1月22日までのもの）

① 「基礎学力の向上」

- ・ 中学校教員と高校教員がTTにより、中学校において、「数学」（すべての連携中学校の2・3年）、「英語」（すべての連携中学校の2・3年）の授業を実施。
- ・ 「基礎学力テスト」として、中学校の生徒に、中学校が分担して作成した「数学」、中学校の定期考査問題を参考に高校が作成した「英語」を実施。中高の担当教員による分析会議において、テスト結果を分析し、交流授業や学習指導に活用。
- ・ 生徒の実態を踏まえ、授業で使用する「数学」「英語」の教材・副教材を作成。
- ・ 夏季休業中に中学校教員と高校教員が中学校の希望生徒に、「古文」「漢文」の問題演習を指導する「中高一貫サマースクール（国語講座）」（1日。50分×2）を開催。



中高一貫サマースクール（国語講座）

② 「キャリア教育」

- ・ 高校の教員が連携中学校に出向き「進路セミナー」を実施。
- ・ 総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」でのライフプラン等の発表会に、中学校の生徒が出席し合同授業を実施予定。

③ 「地域理解」

- ・ 中学校では「総合的な学習の時間」で地域に関するテーマ学習（玉野中「私たちの地域」、中村第一「相馬の特色について調べよう（1年）」・「豊かな自然に親しもう（2年）」・「職場体験を通して地域を知ろう（3年）」、中村第二「相馬を知ろう～自然・歴史・文化の学習～」、向陽中「森林環境学習と地域学習（「自然」「環境」「歴史」「文化）」について学ぼう」、磯部中「地域伝統芸能 盆踊り（相馬盆歌）」「NIE

【双葉地区（富岡町・楡葉町・広野町）での中高一貫教育】

(1) 開始年度 平成18年度

(2) 連携校

中学校：富岡第一中学校、富岡第二中学校、楡葉中学校、広野中学校
高校：富岡高校（国際・スポーツ科）

(3) 基本目標：「国際人として社会をリードする人材の育成」

(4) 連携の柱

- ① 「確かな学力」を育む
- ② 「個」を磨く
- ③ 地球時代の「開拓者」を育てる

(5) 入学者選抜について

平成21年度入学者選抜より、I期選抜枠（45%）に加え、連携型枠を（55%）を設定した。

(6) 教育の特色

- ① 中学生の英語力強化のため、高校の教員と外国語指導助手を中学校に派遣し「英語」（すべての中学校の3学年全クラスが対象）を実施。
- ② 中学校の「総合的な学習の時間」において、高校教員が「福祉」の授業を実施。
- ③ 1年「国際コミュニケーションコース」、3年「福祉コース」・「国際スポーツコース」共通の「国際理解」において、JICAと連携した授業を実施。
- ④ 「スポーツⅡ」において、JFAアカデミー福島のコーチによる実技指導の実施。
- ⑤ クリーン活動
 - ・ 「ゴミゼロの日」（5月30日）に周辺小中学校と地区を分担し清掃活動。
- ⑥ 中学校文化祭において、富岡高校の学校紹介ポスターを掲示



学科棟での授業



人工芝グラウンドでのサッカーの親善試合
正面が新体育館、右側が校舎

⑦ 中学校と高校の生徒会役員によるリーダー研修会を実施。